

変わらない伝統、 新たなチャレンジ



特集■学長・副学長・役職者メッセージ

学長メッセージ ——— 1

「身体に纏わる文化と科学の総合大学へ」

役職者メッセージ ——— 5

副学長「変わらない伝統、新たなチャレンジ」

体育学部長 体育学科長 健康学科長 武道学科長 社会体育学科長

スポーツ文化学部長 武道教育学科長 スポーツ国際学科長

児童スポーツ教育学部長 児童スポーツ教育学科長

保健医療学部長 整復医療学科長 救急医療学科長

身体に纏わる 文化と科学の総合大学へ



東京オリンピック・パラリンピックへの期待、スポーツや大学を取り巻く環境が激変する中で、日体大はさらなる変革を目指して歩み出しています。第12代学長に就任された具志堅幸司体育学部教授に、抱負や展望、私たちが成すべきことについてお話を伺いました。

第12代学長

具志堅 幸司

「まずは、学長就任にあたって、その思いをお聞かせください。」

日体大学長として、リーダーシップを発揮し、本学が有する教育と研究の機能を最大限に高めていくために、全ての教職員に自らのビジョンを的確に伝えていくことを大切にしたいと思っています。全教職員によるビジョンの共有、日体大のいま、これからを共通に理解できるような努めが必要です。

そのためには、まず丁寧な対話とコミュニケーションを図っていきたくと考えています。また同時に、学校法人日本体育大学の理事という立場から、理事会と十分に意思疎通を図り、経営面からの積極的な支持・支援を得られるよう努めてまいります。

具体的な「中期目標・計画」（5カ年程度）を策定して、これをこれまでの「11の大学改革構想」にかわる新たな本学の指針に位置づけたいと考えています。

2020年に東京オリンピック・パラリンピックを迎える我々にとって、その大きな拠り所となるものとして、提示することをお約束したいと思っています。

「大学を取り巻く状況は厳しさを増すばかりですが、日体大の現状をどのように認識していますか。」

本学を取り巻く状況は、我々が実感している通り、より一層、その厳しさが増してきたと認識しています。これまでのように伝統を確実に継承していくだけでは、その存在感を示すことはできなくなっていると感じます。

競技力に秀でたアスリート、学力の高い学生の安定的な確保が、大きな課題としてわたしたちの目の前に横たわっています。18歳人口の減少や入学定員の厳格化に加え、東京オリンピック・パラリンピックを控えて、多くの大

学が新たにスポーツ系学部等を設置しているからです。

これに対して、本学は新たな学部、大学院研究科・専攻の増設を積極的に試み、優秀で多様な人材を迎え入れる体制を整えています。児童スポーツ教育学部、保健医療学部の設置により、小学校教諭、柔道整復師、救急救命士など、新たな職域の開拓が進んでいます。また、これらの学部を基礎とする研究科を開設し、高度専門職業人の養成も、これから本格的にスタートします。

さらには、スポーツ文化学部、スポーツマネジメント学部（仮称）をそれぞれ体育学部から新たに独立させ、グローバルに活躍できるスポーツ指導者やビジネスマンの輩出を目指します。

また、本学の大きな強みである「競技力」を軸にして、大学院体育科学研究科にコーチング専攻（仮称）を新たに開設する計画が進んでおり、アスレティックセラピーとメントとの連携を図りながら、さらに「強い日体大」の姿を鮮明に打ち出していきたいと思っています。

日体大はまさにいま、「総合大学」（身体に纏わる文化と科学の総合大学）への礎を固めているところです。さらに新たな魅力を打ち出して、前進していかなければならないと強く感じています。

「学長在任中の最優先課題は何でしょう。」
学内全体を俯瞰し、いまの日体大に相応しい組織へと転換させていくことが一番の大きな

仕事だと考えます。相次ぐ学部・研究科・専攻の増設は、大学全体を眺め返す時間的な猶予を与えてはくれませんでした。これは、次々と打ち出される高等教育政策に僅かな時間で対応せざるを得なかったことによるもので、特に入学定員の厳格化は大学経営の根幹に関わる極めて重要な問題であり、その対応が待たなして求められました。

そこで、学長在任中、大学全体を見つめ直



ん。全学を挙げて、全ての教職員が一丸となって、これまでにない日体大の輝きを、今後、放ち続けていかなければなりません。これは、学長ひとりの思いやリーダーシップだけで成し遂げられるものではなく、全ての教職員が皆同じ思いで、教育と研究、大学運営、学生指導にあたって、いく必要があると考えています。

「最優先課題である、「内なる改革」（質的充実）の具体的な取り組みについてお聞かせください。」

◆「選手強化」「競技力向上」策の更なる推進
これは、その姿が今後どのように変わろうとも、本学推進の大きな柱であることは言うまでもありません。理事会は、来る2020年の東京オリンピック・パラリンピックに向け、本学関係者70名の出場を目標に掲げています。そのため、これまでも、体育学部を中心に、優れたアスリートの獲得に向けて、入試区分や人員の拡大、さらには特別奨学生を増員を図ってきました。

また、御存知のように、パラリンピックの選手に対しては今後、日本財団からの支援が受けられるようになっており、入試制度を含め、その受入れ体制の確立を急がなければなりません。一方、入学後の競技サポートについても、さらに積極的な展開が求められます。おそらく、その中核を今後担っていくのが、アスレティックセラピーメントではないでしょうか。

さらには、併設校との連携強化による高大一貫の選手育成システムの構築も今後、戦略的に拡大していく事が有効です。

本学のアスリート支援をさらに実効性の高いものとすべく、具体的な方策をこれから本格的に検討していきたいと考えています。

「我々自身が、「総合大学」に相応しい、組織人、大学人になっていかなければなりません。」

求められる重要なターニングポイントだと思っています。



を踏まえ、改定を検討していきたいと考えています。

また、どの学部・学生であっても皆、同じように「日体大の学生として」、これを体現できるようなカリキュラムの在り方も考えていく必要があると感じています。学部が複数に及び、入試も多様化していることから、入学してくる学生もこれまでの受験者層とは異なる雰囲気を感じ出しています。いまここで、「日体大らしさ」について、改めて問いかけていかなければならないと思います。この「日体大らしさ」を具現化するためのひとつの方法として、全学部の学生を対象に、教養科目を中心とした、いわゆる「全学共通カリキュラム」の編成を検討していきたいと考えています。

これまでの単科大学とは違い、様々な個性を持つ学生が本学に集ってきています。多様性は大事ではありますが、それがばらばらであっては数が増えただけになってしまいます。規模が大きくなっても「建学の精神」を日体大の誰もが共有しなければなりません。どんな個性があるろうと、日体大は根底にその気持を持っていなければならないのです。

これまで体育学部の2013カリキュラムで掲げていた、「日体力育成プログラム」を全学的に構築し、全ての学生が体得すべき高い実践力、専門性と幅広い教養の在り方について、教養科目をご担当戴いている先生方の中

心に考えていきたいと思えます。

◆学部・学科の在り方の検討(各学部・学科間の棲み分け)

本学設置の学部は、いずれも専門分野が隣接していることから、その理念や教育課程、卒業後の進路などについて、重複する部分がそれぞれあることは言うまでもありません。場合によっては、学部間で受験生の奪い合いが生じ、共倒れになってしまう危険性もあります。

そこで、各学部・学科の受験者層、教育課程、取得可能免許や資格、及び就職先等の違いを鮮明にして、棲み分け、差別化を図っていくための議論を重ねていく必要があると考えます。各学部・学科毎に、新たなターゲット、受験者層の獲得を目指して、カリキュラムの改編や就職先等について、教員免許に頼らない、これまでとは異なる分野へと積極的に送り出していくための方策を検討していきたいと考えています。

一方、体育学科と健康学科で構成される新たな体育学部の在り方についても、なるべく早い段階で提示できるように、引き続き議論を重ねていきたいと思えます。

◆大学院研究科、研究室(群)の在り方の検討(研究組織の再編)

本年4月、教育学研究科が開設されました。また、平成30年度の開設を目指して、保健医療学研究科と体育科学研究科に新たにコーチング学専攻(仮称)の設置を構想中です。そのため、現在の体育科学研究科体育科学専攻の担当教員が、それぞれ新たな研究科及び専攻に異動することになっています。大学院全体を見渡し、それぞれの完成年度に向け、教員配置を検討し直さなければなりません。

また、これと同時に現在の研究室(群)の体制についても、学部の増設にあわせて見直しが必要と迫られています。適切な人員配置、研究室の区分など、将来の人事の在り方を含め、研究組織の再編も大きな課題のひとつです。いずれにせよ、より良い研究環境の整備を早急に進めていかなければなりません。

◆各種会議体・事務組織の在り方の検討(「総合大学」に相応しい組織づくり)

現在の各種会議体や事務組織の在り方を見直し、現在の日体大に相応しい組織づくりを目指していかなければならないと考えています。学部の特化した案件なのか、大学全体に及ぶ事柄なのかによって、学内委員会の位置づけをそれぞれ検討する必要があります。

また、学部が相次いで増設されたにも関わらず、事務組織については大きな改編はされていません。複数の学部を擁する大学として、有効に機能できる在り方をここで考えていく必要があると思えます。ガバナンス体制の構築に向け、これらの検討は、大変重要だと認識しています。

◆その他(地域貢献、国際ボランティアへの積極的な参加)

大学の役割のひとつに、「地域・社会貢献活動」が挙げられます。本学では、「日本体育大学社会貢献推進機構」を設置して、地域(世田谷区、横浜市等)との連携・協力関係の構築を目指しています。公開講座やスポーツ教室を開催したり、本学学友会運動部の試合・練習を公開したりするなど、様々な企画を実施します。

また、本学同窓会はもとより、学校法人日本文学大学として、地方自治体との連携を積極的に進めており、全国的な活動として、地

◆ミッション、ビジョンの再構築(「日体大らしさ」の具現化)

本年4月には、4学部、翌30年度からは5学部体制を目指し、現在の準備が進んでおり、それにあわせて、本学の担う社会的使命と目指すべき方向、目標も改めて見直す必要があると思われます。体育学部に加え、児童スポーツ教育学部、保健医療学部、スポーツ文化学部、さらにはスポーツマネジメント学部(仮称)の設置の趣旨や人材育成の方向など

域社会あるいは我が国全体の活性化に貢献していきたく考えています。指導者の派遣や体力づくり、運動指導・介護指導などの公開講座を実施していき、「地方創生」の原動力になりたいと考えています。

一方、本学はこれまで、国際協力機構（JICA）のボランティア事業として、開発途上国へ長期・短期の派遣事業に多くの人材を送り出してきました。国際協力機構と連携協定を結び、JICAボランティア派遣を通じて、開発途上国における体育・スポーツの普及・振興を図り、大学の知的財産や人材を有効に活用し、国際協力の分野における人材育成を目指します。

―本学学生に向けて、メッセージをお願いします。

多くの学生が、その学生生活の大半を大好きなスポーツに打ち込んでいます。そのため、なかなか、授業やクラブ活動、寮や合宿所以外の時間を持つゆとりがありません。

是非、意識をして、日体大以外の世界を持つように心掛けてください。あるいは、好きなスポーツ以外のことを考える時間を意図的に設けてください。夏休みや後学期の授業が終わった2月、3月をうまく利用すれば、様々な世界を知ることが出来ます。海外の大学への短期留学や、JICAの短期ボランティアなど、望めばいくらでもその第一歩を踏み出せます。スポーツへの取り組みと同じように、果敢にチャレンジしてみましょう。

また、キャンパスをゆつくり散策してみてください。教室とグラウンド、体育館を直線的に移動するのではなく、いろんなところに視線を向けてみましょう。多くの絵画や彫刻に気づかれます。いずれも、意味があつてそこに展示されています。それぞれの作品がなにかを

自身の眼でしっかりと確かめて下さい。審美眼を養うことは、それぞれの競技にも通じるでしょうし、教養として、皆さんの心を豊かにしてくれます。図書館に足を運べば、貴重な情報をたくさん引き出すことも可能です。何事にも、興味を持つこと、自らの知的好奇心を常に煽り続けてください。

―日体大を目指す高校生に向けて、メッセージをお願いします。

「日体大は、スポーツが得意な人がいく大それた大学、そう思われることがよくあります。もちろんさまざまなスポーツでトップアスリートといわれる選手や世界レベルの指導者が他の大学の追随を許さないくらい数多くいますが、本学に集う者すべてがそうではありません。

「コーチやトレーナーとして、トップアスリートとともに働きたい」「スポーツ・健康の専門分野を究め、スポーツ科学・健康科学の最先端に触れたい」「年齢、性別、障がいの有無にかかわらず、スポーツのバリアフリーを実現したい」「スポーツで世界の経済を動かしてみたい」「スポーツを通じて、世界に貢献したい」「子どもたちにスポーツの楽しさを伝えたい」「多くのひとを怪我や病氣から救いたい」など、さまざまなビジョンを胸に、スポーツや子どもが大好きな仲間たちがキャンパスを交わしています。

日体大はいま、「スポーツ」「身体」「生命」をキーワードに学びのフィールドを拡大・深化させ、新たな学際領域を創り出しています。これらを学びたいという、皆さんの強い思いに応えられるだけの施設や教育課程、スタッフが十分に備えていると自負しています。

わたしたちは、トップアスリートとして国際的な舞台で活躍することだけが唯一の価値だとは考えていません。あらゆる分野、職

域でリーダーとして世界を駆け巡り、活躍できる人材の育成を目指しています。是非一度、日体大に足を運び、じっくり本学の雰囲気を感じ取って欲しいと思います。

―最後に改めて、一言お願いします。

本学ホームページでも申し上げていますが、日体大は、1891年に創設されてから今日まで、スポーツを基軸に教育や健康・福祉等の分野を中心に数多くの人材を育成・輩出し、地球上の全ての人々の願いである「心身の健康」を一貫して追究してきました。また、1964年の東京オリンピックを契機にして、優れたアスリートの養成にも力を注ぎ、日本のスポーツ界の国際競技力向上に大きく貢献しています。その結果は、オリンピックで日本が獲得したメダルのおよそ1/4にあたる128個の金・銀・銅メダルが本学関係者によつてもたらされたことからも明らかです。こうした歴史と伝統は、世界に誇るべき実績として、日体大を燦然と照らし続けています。

2020年、再び、東京にオリンピック・パラリンピックがやってきます。わたしたちにとつて、ここを新たな歴史のターニングポイントと捉え、その先の未来を見据えた様々な取り組みを積極的に展開していかなければなりません。

現在、日体大は大きな変革期にあります。学部等の増設が一段落すれば、およそ7500名の学生が本学に集うことになり、新たな学部の完成をまつて、今後は学科の新設等が課題になってくるでしょう。収容定員8000名のいわゆる大規模大学も視野に入れながら、学内での議論を活発に進めていきたいと考えています。

本学に課せられた新たな使命として、スポーツ文化のさらなる可能性を創造し、これまでにない世界を描いていくこと、つまり、世界共通の人類の文化であるスポーツを通じて、生涯にわたつて笑顔溢れる幸福で豊かな社会の実現を目指していきたいと考えています。

これからも、「スポーツ」「身体」「生命」をキーワードに、学問の射程を拡大・深化させながら、「身体に纏わる文化と科学の総合大学」として、その魅力を十二分に発揮し、世界に向けて大きく飛躍できるよう、教職員一丸となつて、教育と研究、社会貢献活動に取り組んでまいります。

全国の同窓、保護者の皆さま、さらには本学を応援して下さる多くの方々、御理解と御協力とを得、日体大は、新たなチャレンジに臨みます。なにとぞ、よろしくお願いたします。



●Profile 具志堅 幸司(ぐしけん こうじ)
日本体育大学体育学部体育学科卒業(S54.3) / 天皇杯受賞(5回)、総理大臣賞受賞(5回)、文部大臣賞受賞(S58)、紫綬褒章受賞(H17)、文部科学省スポーツ功労者顕彰受賞(4回) / 1984年ロサンゼルスオリンピック 体操金・銀・銅メダリスト
学生時代の思い出:体操一筋。メキシコ・オリンピックがきっかけで体操を始めて、常にオリンピックを意識していました。
趣味:茶道を始めて8年。その所作に集中していると何もかも忘れて“無”になることができます。

平成29年、日体大の新体制がスタートしました。大学・学部をリードする役職者の先生方に就任にあたっての意気込み・メッセージを語っていただきます。

改めて職責の重大さを実感



副学長(企画・管理・運営担当) 体育学部 学部長(兼任)

まつい 幸嗣

◆就任にあたって／谷釜前学長の下で仰せつかった

いた副学長職を、再度拝命することになり、改めてその職責の重大さを実感しています。副学長の役割は学長のサポートですが、具志堅学長とは違った観点や目線で物事を見つめ、学長を支えることが大切だと思っています。皆様のご協力をお願いいたします。

◆抱負／副学長の役割は学長のサポートであると認識しています。学長の所信表明にあるように心構え・誓約、現状の分析を踏まえた本学の将来構想に関する方針、そして2020年東京オリンピック・パラリンピック後に向け取り組むべき事の三本柱、さらには「選手強化」「競技力向上」策の推進、ミッション・ビジョンの再構築(「日体大生らしさ」の具現化)、学部・学科の在り方の検討(各学部・学科

間の棲み分け)、大学院研究科、研究室(研究室群)の在り方の検討(研究組織の再編)、そして各種会議体・事務組織の在り方の検討(身体に纏わる文化と科学の「総合大学」に相応しい組織づくり)等の公約を施策・課題と捉え、副学長としてしっかりと支えていく所存です。

◆東京オリンピック・パラリンピックに向けて／

2020年に東京オリンピック・パラリンピックが開催されます。本学では学生、関係者を含め70名の出場を目指し4月からスタートする日本体育大学アスレティックデパートメントと連携して選手の勧誘・支援、更なる競技力の向上を積極的に進めていきたいと考えています。その中でも競技力強化支援部門、ハイパフォーマンスセンター、コーチングエクセレンスセンター、スポーツトレーニングセン

ターの役割は重要であると考えています。

◆日体大生に望むこと／元氣よく何事に対しても「チャレンジ」をする姿勢を望んでいます。ひとつの物事に対して「できる?できない?」が問題ではなく、「やるか?やらないか?」が重要です。できるか、できないかを怖がってなにもしないのではなく、まずはやってみようという行動に移ることが大切です。間違っても、失敗しても良いのです。その失敗が次の行動に繋がっていくことになるからです。私はハンドボール部男子の監督として30年が過ぎました。この間、全日本インカレで15回優勝、7回準優勝しました。この結果は負けた試合から得られた反省を次にしっかりと活かした成果だと思えます。間違いや失敗、負けを恐れず何事にもチャレンジしてください。

●Profile 松井 幸嗣(まつい こうじ)

①日本体育大学体育学部体育学科(S55.3)／②体育学士／③日本体育学会、日本ハンドボール協会、日本ハンドボール協会 理事、全日本学生ハンドボール連盟 理事、日本ハンドボール協会 表彰④まず浮かんでくるのは部活動のことです。私はハンドボール部に籍を置き、活動していました。日体大の校友会クラブの中でも1、2位を争うほど練習面・生活面で厳しいクラブでしたが、2～4年生まで全日本インカレで3連覇しました。4年間のクラブ生活で苦楽を共にした先輩・後輩、そして同級生はかけがえない宝です。⑤大型バイク(ハーレーダビッドソン FLHR103)でのツーリング。

①最終学歴、②学位、③おもな所属団体・経歴等、④学生時代の思い出、⑤趣味・特技

変わららない伝統、

新たなチャレンジ

◆**就任にあたって**／大変重要な職務を拝命し改めて気の引き締まる思いです。職務遂行にあたっては微力ながらも具志堅学長のお仕事を陰で支えつつ、時に皆様の心が和むよう卓上に置かれた「輪の花」のような存在でありたいとも考えています。また、日体大を愛する方々の思いに沿えますようご意見を頂戴し本学の発展に寄与していきたいと思えます。

◆**抱負**／日体大は多くの学生が目標とする体育・スポーツの指導者としてどうあるべきかのガイドラインを示しています。その意図をきちんと理解し、将来に活かせるよう引き続き啓蒙していければと思います。また、様々な運動に適した食事のとり方があると思います。摂取したものが体に表われ、競技成績にもつながります。「食べて体を創る」と考え、どの

ような提案ができるのか検討できればと思います。

◆**東京オリンピック・パラリンピックに向けて**／日体大はオリンピック・パラリンピックを支えるために専門の研究が進められており、世界に研究の英知を発信していければと思います。また学生たちは東京オリンピック・パラリンピックに向け最も優れた運動と文化の祭典を体験する機会に恵まれます。特にパラリンピックでは、学生が自主創造的に競技者等と関わり、一緒に感動を体験できるように、そして日本文化や伝統芸能についても誇りをもち理解を深めていくことを期待します。

◆**日体大生に望むこと**／笑顔で挨拶です。最近イヤホンを学内でもしており自分の世界に没頭し、人とすれ違う気配さえも遮断し「自分はイヤホンして

いるから…」と言わんばかりに無言で去っていく学生が気になります。大学内にいる大人も子どもも皆大学に関係するからそこにいるのです。体育学部をはじめ、児童スポーツ教育学部、スポーツ文化学部、保健医療学部、大学院生と皆、スポーツで結ばれた仲間であり、日体ファミリー、地域の方々もキャンパスを訪れることがあります。明るく元気な声があちらこちらで飛び交えば素敵でさわやかな空間が生まれます。人は見た目が9割と言われていますが、ビジネスパーソンや教員になってから、慌てて意識を変えるのは難しいことです。笑顔で挨拶することを実践してほしいと思います。ご機嫌な雰囲気をご自身で発信し、豊かな人間関係、そして一生ものの挨拶の習慣を身につけてください。

副学長(教学・学生生活担当)

笠井 里津子

日体大を愛する方々のために



●Profile 笠井 里津子(かさい りつこ)

①日本体育大学体育学部体育学科(S56.3)／弘前大学大学院医学研究科博士課程(H26.3)／②博士(医学)／③日本体育学会、日本保育学会、舞踊学会、日本運動・スポーツ科学学会、日本体力医学会、日本衛生学会、東京都女子体育連盟副会長、日本体育大学ダンス部部长④負けず嫌いで運動量が少ない日は駒沢公園を走り、真面目に自主練習を課しダンス部の仲間と一日中活動していました。夜通しで作品創作し朝日を何度も見ました。私の人生に必要な大切な学びはダンス場にあり、生涯の恩師と友人を得ることができました。

⑤犬が大好き。50年近くヌーピーグッズを収集しています。

改革に向けて行動を

体育学部 体育学科 学科長

水野 増彦



◆**就任にあたって**／社会の変化が急速に進む中、本学の理念、ミッション、ビジョンに基づき更に発展させること、改革していくべきことを明確にして行動に移していかなければならないと考えます。また共生社会の実現に向けスポーツイノベーションに挑戦します。

◆**抱負**／日体大だけでしか学ぶことのできない体育学科特有の教育研究を創造的に展開し、国際社会の体育・スポーツ界の最先端を行く学科を目指すために皆様とともに考えていきたい。また、2020年の東京オリンピック・パラリンピックに向け、さらなるトップアスリートの養成及び心身ともに兼ね備えた人格的な学生を、即戦力として社会に送り出していきたいと思えます。

◆**東京オリンピック・パラリンピックに向けて**／2020年東京オリンピック、パラリンピックでは、本学の研究と学術を駆使したスポーツへの取り組みの成果を披露するチャンスであり、その活躍が国民の心に感動や勇気を与えるよう、新たな歴史を築き上げていきたいと考えます。

◆**日体大生に望むこと**／学生自ら主体的、自発的に行動し学ぶ姿勢が必要です。自分はどうなりたいのか目標を明確にし、具体的にどのように目標達成に向けて取り組んでいくかを、自ら考え、創意工夫していくことが大切です。その過程において、実行力、責任感、判断力、協調性、忠実性等、様々な学びを身につけ成長していくことを願います。また、社会において、様々な立場の人と、より良い人間関係を構築することも必要であると考えられます。

●Profile 水野 増彦(みずの ますひこ)

①日本体育大学体育学部体育学科卒業(S58.3)②体育学士③日本コーチング学会、日本体育学会、日本陸上競技連盟強化委員(障害部長)、関東学生陸上競技連盟評議員歴任、文部科学大臣賞受賞(H13/H15)、関東学生陸上競技連盟指導者功労賞(S63、H13、H15)、日本学生陸上競技連合功労賞(S63)④在学中から今もお陸上競技部に所属。競技中心の生活を送り、卒業後2年目の助手時代に日本選手権で優勝し競技人生において最高の時を迎えました。33年の時を経て、未だに集う学友が存在することが私の財産です。⑤植物や花を育てながら成長を見守るのが楽しみです。

命と健康に貢献する学生を

体育学部 健康学科 学科長

鈴木 一宏



◆**就任にあたって**／本学は創立以来、国民の健康と体力の保持増進を目指してきました。長寿国である日本において今まさに健康と体力は国民的な課題となっています。健康学科長として、社会に貢献できる学生の育成に全力を尽くす所存です。

◆**抱負**／現在の日本では、社会が便利になると同時に複雑化し、健康の維持が難しくなっています。したがって、人びとの健康を考える上で多面的かつ総合的な取り組みが必要であり、社会全体で個人の健康をサポートすることが重要です。健康学科では第一種衛生管理者、養護教諭、社会福祉士など各領域に関する資格を取得し、健康に関する各分野で即戦力として活躍できるような人材を育成したいと考えます。

◆**東京オリンピック・パラリンピックに向けて**／健康のためには身体活動が重要であると再認識されています。世界共通の人類の文化であるスポーツの祭典によって運動・スポーツが普及し、人びとの健康および体力の保持増進に繋がることを期待します。

◆**日体大生に望むこと**／スポーツ基本法では、「スポーツは、心身の健康の保持増進にも重要な役割を果たすものであり、健康で活力に満ちた長寿社会の実現に不可欠である」とされています。スポーツ普及の役目を担う皆さんには、全力で運動・スポーツに親しんで欲しいと思えます。また、大学生には4年間の限られた時間しかありません。将来の夢を実現するために努力を惜しまないで下さい。そして、限られた時間を有効に使って学生生活を謳歌して下さい。

●Profile 鈴木 一宏(すずかわ かずひろ)

①日本体育大学体育学部体育学科(H4.3)、弘前大学大学院医学研究科医科学専攻(博士課程)(H21.3)②博士(体育科学)、博士(医学)③日本体力医学会(評議員)、日本運動・スポーツ科学学会(常任理事)、体力・栄養・免疫学会(理事)、日本体力医学会賞(H10)、日本運動・スポーツ科学学会優秀論文賞(H21、H28)④日体大での友人は、何でも相談できる仲間でした。陸上競技部に所属し、毎日、健志台のグラウンドを走っていました。一緒に汗水を流し、そして夢を語り合った仲間は一生の友です。⑤映画鑑賞。昨年からは健康のため週に1〜3日ジムに通っています。

更なる発展に向けて



体育学部 武道学科 学科長

齋藤 一雄

◆就任にあたって／武道学科は1965年に設立された歴史と伝統のある学科です。その伝統ある武道学科の学科長に就任することとなり、身の引き締まる思いです。また同時に更なる発展を遂げるべく、使命感に燃えています。

◆抱負／「学生の為に何が出来るか？」このことを念頭に置き、取り組んでいきます。社会ではグローバル化の大波が押し寄せています。今の常識は10年後通用しません。このような激しい時代の流れの中で、その場所で必要とされる人間になれるよう教育・指導に努めてまいります。また、武道は国際的にも注目されています。是非、武道学科から競技者として指導者として世界へ羽ばたけるよう環境を整えて尽力していきます。

◆東京オリンピック・パラリンピックに向けて／東京オリンピック・パラリンピック成功の鍵は日体大生及び卒業生にかかっているといっても過言ではありません。選手のみならず運営スタッフ全てにおいて「日体大ここにあり」という所を見せて頂きたいと思います。

◆日体大生に望むこと／悔いのない学生生活を送って頂きたいです。何事にもチャレンジ精神を忘れず、失敗を恐れずどんどん挑戦してください。そして最後まで決して諦めない強い意志をもって今を一生懸命生きてください。「日体大に来てよかった！」卒業する時にこう思って頂くことが、我々は何よりも嬉しいことです。学生時代に出会った仲間は一生の財産になります。人と人の関わりを大切に、目標に向けてとびきりの日体魂で頑張ってください。

●Profile 齋藤 一雄(さいとう かずお)

①日本体育大学体育学部武道学科(H2.3)／弘前大学大学院医学研究科医科学専攻(H14.9)／②博士(医学)／③国際相撲連盟 常務理事、公益財団法人日本相撲連盟 常務理事④学生時代は相撲部に所属し、仲間と共に稽古に励んでいました。その仲間は現在、全国に散らばっていますが、会えば思い出話に花が咲く大切な存在です。学生生活で一番の思い出は、4年生時にインカレで団体優勝したことです。部員全員が一つになって目標を成し遂げたあの時の興奮や達成感が今でも忘れられません。⑤大会や遠征で地方に行くことが多く、先々で旧跡巡りを楽しんでいます。

歴史の継承と新たな改革



体育学部 社会体育学科 学科長

依田 充代

◆就任にあたって／体育学部社会体育学科は新たな局面を迎えつつあります。これまでの歴史を継承しながら、社会のニーズに応えることができる人材の育成を目指します。そのための改革が学科長に課せられた使命と責任です。

◆抱負／社会体育学科に入学した皆さんには胸を張って「社会体育学科を選んで良かった」と思ってもらって卒業して欲しいと思います。そのためにも、社会体育学科でこそ取得が可能な資格や実習について、学生の理解を深めます。また、進路の幅を広げるために、インターンシップなど現場体験やボランティアを行う場を広げて、ホスピタリティ溢れる学生を育成します。これは卒業生たちの活躍の場と現役学生を繋げる取り組みでもあります。

◆東京オリンピック・パラリンピックに向けて／東京オリンピック・パラリンピックではホスト国の学生として、大会期間中だけではなく、事前事後の各種イベントの開催やスポーツ大会におけるパブリックビューイングの実施などを運営して大会機運を高めていきたいと思います。

◆日体大生に望むこと／生きがいとは「居がい」です。自分の居場所をつくることのできる仲間を見つけて共に学生生活を充実させましょう。また、学生時代は興味があることに全力で取り組むチャレンジ精神が重要であると思います。大学には本人が望まない限り、門が開かれない教育と研究の現場があります。本学にはその道のエキスパートと呼ばれる先生方がたくさんいます。そこでは「学ぶ」という謙虚な態度とその姿勢が望まれます。

●Profile 依田 充代(よだ みつよ)

①日本体育大学体育学部体育学科(H1.3)／日本体育大学大学院体育学研究科(H8.3)／②修士(体育学)／③日本体育大学フェンシング部初の全日本団体優勝メンバーで三大会制覇。卒業後教員として指導にあたり、全国大会ベスト8、関東大会ベスト3。④学生時代はクラブ活動に追われて世界を目指していました。大学3年生で出会ったゼミで学ぶことの面白さを知りました。「体育専攻学生の誇りと生きがい」、「共に学ぶ喜び」を実践した学生生活でした。以後、高等学校教員を経て、大学院進学、大学教員として教育と研究に追われる日々です。⑤趣味は読書です。出張などで移動する時間も本を読むことを楽しみにしています。

新学部への期待を実感



スポーツ文化学部 学部長

八木沢 誠

◆**就任にあたって**／本学で4つ目の学部となる「スポーツ文化学部」初代学部長として、その責任の重さと期待の大きさを感じています。体育・スポーツを基軸とした社会貢献、国際貢献ができる学生の育成に全力で臨みたいと思います。

◆**抱負**／グローバル化が進む中で国際社会が相互に共生を目指していく事は極めて重要です。教育においても他者の文化を理解・尊重し、コミュニケーションを図っていく能力の育成が一層求められます。そこで本学部では①スポーツを通じた国際相互理解の促進、②スポーツによる国際協力援助、③日本の武道を理解し海外への普及を推進できる人材の育成、④スポーツによる国際協力支援と国際交流を推進する人材の育成を目指します。

◆**東京オリンピック・パラリンピックに向けて**／2020年の東京オリンピック・パラリンピックはまさに本学部の狙いとする国際協力支援と国際交流を実践する格好の機会です。一人でも多くの学生がオリンピック・パラリンピックを支える力となればと考えています。

◆**日体大生に望むこと**／国際協力等に参加するにあたり語学力、特に英語は必要ですが、実際は高い語学力がなければ活動できないものでもありません。求められるのは度胸です。日体生はスポーツの様々な活動や場面を通して精神力が鍛えられていきますから恐れずに海外に出て行って欲しいと思います。大学の申だけでは学べない事を沢山経験して視野を広げ、将来の自分自身の可能性を切り拓くことを願っています。

●Profile 八木沢 誠(やぎさわ まこと)

①日本体育大学体育学部武道学科(S59.3)／日本体育大学大学院体育学研究科(H2.3)／②体育学修士／③日本武道学会、スポーツ史学会、全日本学校剣道連盟常任理事、関東学生剣道連盟卒業生常任幹事、東京都剣道連盟常任理事、世田谷区剣道連盟顧問④入学と同時に剣道部に入学し、4年次には主務を務めました。当時は全国津々浦々から220名を超える部員が在籍しており、多くの先輩や後輩たちと剣を交え、大いに語り合いました。今の自分があるのも4年間を乗り切った自信と多くの剣友の支えと感謝しています。⑤掃除が息抜き。気持ちのコントロールになっています。

伝統を礎に人材育成を



スポーツ文化学部 武道教育学科 学科長

山本 洋祐

◆**就任にあたって**／1965年に体育学部武道学科が開設され52年の歴史の変遷を経て、スポーツ文化学部武道教育学科が誕生しました。先人が築かれた礎を大事にしながら社会百般に役立つ人材を育成していきたいと考えています。

◆**抱負**／武道教育学科の教育の柱は、国際相互理解や国際貢献等を武道、芸道を通じて他者との共生を図ることであり、グローバルな人材育成が最も必要です。語学力を向上させ、海外実習経験を積ませる事が重要であり、合わせて授業、大学生活、部活を通して想定内、想定外の事に直面しても何事もプラスに考えられる人間力の高い学生を育てることが我々の使命であると思います。

◆**東京オリンピック・パラリンピックに向けて**／リオ大会は、「JOCが掲げた「人間力なくして競技力向上なし」をスローガンに強化に取り組み最多の41個のメダルを獲得し、本学関係者も大活躍しました。東京大会も人間力、克己心、日体魂を持って最高の準備をして挑んでほしいと思います。

◆**日体大生に望むこと**／精力善用、相助相譲、自他共栄は、柔道の創始者である嘉納治五郎師範の教育の柱。心身の力を有効に使い、全力で目的に向かって努力する事です。しかし目的達成の為には、意見の衝突は避けられないが、決定事項や方向性に理解を示し、助け合い、譲り合う事ができればお互い、組織は栄えていくという意味です。社会に出る最後の4年間、充実した日々を送ってください。

●Profile 山本 洋祐(やまもと ようすけ)

①日本体育大学体育学部武道学科(S57.3)／弘前大学大学院(H18.9)／②博士(医学)／③日本体育学会、日本武道学会、全日本柔道連盟強化コーチ、全日本柔道連盟強化副委員長、リオオリンピック柔道競技チームリーダー④前年の世界選手権で優勝し、ソウルオリンピックでは金メダル獲得だけが目標でした。準決勝で敗退し3位決定戦に臨みましたが、応援にきている同級生がエッサッサを大合唱してくれ、最後まで戦う事ができました。銅メダル獲得は、学生時代に苦業を共にした親友達のお陰だと感謝しています。⑤腕は自信がありませんがゴルフを楽しんでいます。

新たな一歩に感動



スポーツ文化学部 スポーツ国際学科 学科長

かねだ えいこ
金田 英子

◆**就任にあたって**／本学 120 有余年の歴史と伝統の中での、新たな一歩に感動しています。日体大は、幼稚園から大学までのワンファミリー化を基本方針としています。本学科はチームで、新学部、そして日体ファミリーを支えています。

◆**抱負**／諸外国との単なるスポーツ交流ではなく、Evidence-based sport を目標とします。この言葉を初めて聞く人も多いと思いますが、スポーツをととした国際理解・平和構築、そしてスポーツを手段とした健康課題への取り組みなどについて、具体的な証例 (Evidence) に基づいた理論や実技を確立することです。日体大生がチームを組んで邁進していくことで、アジアをリードする大学の一つになると確信しています。

◆**東京オリンピック・パラリンピックに向けて**／オリンピック成功の決め手は、一人一人が立役者になることです。選手・大会役員はもとより、裏方のスポーツボランティアも立派な立役者です。日体大生の皆さんが、いろいろな場で活躍してくれることを期待します。

◆**日体大生に望むこと**／スポーツのグローバル化が盛んに言われています。語学ができることと、人とのコミュニケーションがとれることは別です。みなさんが持っているスポーツ特技や個性を活かして、積極的に海外に目を向けてみて下さい。そうすることで、自分の世界も広がり人生が豊かになります。しかし海外には、政情不安、健康不安など危険もたくさんあります。どのようなことに注意をすべきか、本学でしっかりと学びながら世界に羽ばたいて下さい。

●Profile 金田 英子(かねだ えいこ)

①日本体育大学体育学部健康学科 (S61.3)／日本体育大学大学院体育学研究科体育学専攻 (H3.3)／②博士 (医学)／③日本国際保健医療学会、日本健康教育学会など。青年海外協力隊 (ネパール・体育) や JICA 短期専門家 (タイ・学校保健) などを経験。ネパール王国教育功労賞受賞。④特別活動、スキー実習、体育研究発表実演会など、日体大ならではの行事を通し、机上での学問より大切なことを数多く教えてもらいました。陸上競技部所属。今では当時の先輩や後輩が指導者となり、互いに応援しあって絆を深めています。⑤ネパール語を活かし通訳に携わることもあります。

更なる発展に向けて



児童スポーツ教育学部 学部長

くぼ けんじ
久保 健

◆**就任にあたって**／学部創立 4 年が経過し、初の卒業生を送り出すことができました。その間、入試、学習・生活支援、教育実習、就職など、無我夢中で取り組んできました。その経験を踏まえた学部の改革・再構築が課題になります。

◆**抱負**／まず、教育課程の再検討です。4 年間の経験をもとに、学生にとって質・量ともに適正な、人生の選択肢に応じて学びがいのある教育課程を創りあげていきたいと考えています。また、キャリア教育を早期から充実させ、特に本学部の主旨である「体育・運動遊びに強い小学校教員、幼児教育・保育者の育成」はもちろん、ジュニアスポーツ指導者や児童福祉分野などの有為な働き手を育成し、採用試験等に合格させたいと考えています。

◆**東京オリンピック・パラリンピックに向けて**／本学部にも、オリンピック・パラリンピック出場を目指す学生が増えてくる可能性があります。選手として「する」だけでなく、「見る・支える」ことも合わせた総合的な参画という観点から寄与したいと考えています。

◆**日体大生に望むこと**／本学および本学部の学生たちと教学生活をともにして感じていることは、授業でいえば実技・実習、課外のサークル活動やボランティア活動などにおけるフットワークの軽さと旺盛な行動力です。この長所を生かしつつ、それらを講義を批判的に聴き、よく考え抜き、他者と意見をたかかわせること等と往還させながら、自分のしっかりとした考えを持てるように、自己形成を図ってほしいと思います。

●Profile 久保 健(くぼ けんじ)

①東京教育大学体育学部体育学科 (S49.3)／東京教育大学大学院体育学研究科修士課程体育学専攻 (S52.3)／②体育学修士／③日本体育学会、日本体育科教育学会、教育科学研究会、学校体育研究同志会④多くの大学入試が中止された年で、「本命」を見失ったまま受験しました。そのためか、運動部に所属するも 2 年次にプレイヤーに挫折、体育指導者それも特に初心者指導者としての知識と技能を磨きました。⑤哲学書から推理・時代小説、コミックまで「活字中毒」を自認。

学生対応に注力したい



児童スポーツ教育学部 児童スポーツ教育学科 学科長

岡本 美和子

◆**就任にあたって**／今年の3月、本学科の1回生が将来への期待と希望に胸を膨らませ社会に飛び立ちました。彼らの輝く表情を見て、学生の学びや成長をしっかり後押する学科でありたい、そのためにも学生対応に力を注ぎたいと考えています。

◆**抱負**／本学科は教育の中でも特に児童期の発達段階に焦点を当てていることが特徴です。その時期の子どもたちの心身の発達に応じた運動遊び、体づくり、スポーツ・健康分野での指導や支援を得意とする専門家の育成を目指しています。専門的な知識を基盤とした実践的指導力を身に付けるためにも、児童スポーツ教育コース、幼児教育保育コース共に教育および指導現場との交流、そして体験活動等の充実を図れるよう取り組みたいと考えています。

◆**東京オリンピック・パラリンピックに向けて**／全国の大学の中でも本学はオリンピック・パラリンピックに最も近く身近な大学ではないでしょうか。オリンピック・パラリンピックに向け、選手の応援と同じ位に学生と共にVoluntarismの精神で臨みたいと思います。

◆**日体大生に望むこと**／子どもの教育、養育、健康支援にかかわることは、将来の日本社会を形づくる上で大事な役割であり私達大人の役目です。そのような志を持つ皆さんに、ぜひ本学科の門をくぐっていただき、共にその役割を担っていきましょう。

●Profile 岡本 美和子(おかもと みわこ)

- ①東京医科歯科大学大学院保健衛生学研究科 博士後期課程(H18.3)／②博士(看護学)／
- ③日本食育協会(理事)、日本女性心身医学会(理事)、明治安田厚生事業団(理事)、国立スポーツ科学センター文部科学省委託事業「女性アスリートの育成・支援プロジェクト」協力者
- ④大学ではラグビー部マネージャーでした。泥だらけのグラウンドでルールを覚えスコアブックを書くのに必死で、ケガや救急対応に悪戦苦闘。選手の個性がぶつかり合い、僅かなスキを抜ける競技の面白さを知りました。⑤スポーツ観戦と絵画鑑賞。共に観る側に情熱と粘り強さを見事に伝えてくれます。

更に活気に満ちた学部に



保健医療学部 学部長

平沼 憲治

◆**就任にあたって**／保健医療学部では、人の痛みがわかる思いやりと優しさを持った医療人を育成していきたいと思っています。社会に貢献できる人材を輩出し、地域の皆様からも信頼され、愛され、活気に満ちた学部を築いていきたいと願っております。

◆**抱負**／今までも日本体育大学は体育学部において怪我(スポーツ損傷)に関する研究・教育を行ってきましたが、そのテーマは、怪我の予防が主でした。今後は怪我の予防のみならず、診断・治療が研究・教育の対象となり、新しい展開が期待できます。学生教育では、知識や技術を習得するための教育のみならず、医療現場実習等を通じて豊かな人間性を形成するための教育を行いたいと思います。そのためにも実習等の更なる内容(設備等)を充実させる必要があります。

◆**東京オリンピック・パラリンピックに向けて**／多くのオリンピックを輩出するには、「競技力向上」と「メディカルサポート」の両方が必要であり、後者の「メディカルサポート」のできる人材を育成します。また大会開催中の救急体制にも積極的にご協力したいと考えております。

◆**日体大生に望むこと**／本学は良き伝統を受け継いだ、素晴らしい大学です。学生は礼儀正しく、規律ある活動をしています。日本の良い伝統・美德がこの大学には残っています。キャンパス内には何時も清々しい空気が満ち溢れています。本学の伝統・校風を大切に、毎日を精一杯に生き、誇りと自信を持って卒業し、立派な社会人になって頂きたいと思っています。

●Profile 平沼 憲治(ひらぬま けんじ)

- ①産業医科大学医学部医学科(S60.3)／②博士(医学)／③日本整形外科学会、日本体力医学会、日本臨床スポーツ医学会評議員、日本整形外科スポーツ医学評議員、「第9回秩父宮記念スポーツ医学賞—奨励賞—」受賞④北九州の産業医科大学で、スポーツドクターを目指して6年間を過ごしました。入学後早々、肺炎で授業を欠席。環境が変わり、自分では気づかないストレスがあり、抵抗力が低下していたのだと思います。新入生、特に地方出身者は、体調管理に気をつけてください。⑤サッカー、アメフトのゲーム観戦、自分で体を動かすゴルフ、異文化に触れる海外旅行

本学の発展のために邁進



保健医療学部 整復医療学科 学科長

伊藤 譲 (いとう ゆずる)

◆**就任にあたって**／来年は整復医療学科の卒業生が誕生します。具志堅新学長のもと、整復医療学科の卒業生が医療の面からスポーツを支える有為な人材として活躍できるよう、そして日体大のますますの発展のために全力でがんばります。

◆**抱負**／当学科初の卒業生の誕生を控え、柔道整復師を目指す学生さんの国家試験受験および医療系国家資格（柔道整復師）を活かしたスポーツ分野への就職を全力でサポートします。また、開院3年目を迎えるスポーツキュアセンター横浜・健志台接骨院では、日体大アスリートが質の高い医療を受けられるよう研鑽を続けるとともに、日曜祝日も開院することで、いつでも安心してスポーツに全力で取り組めるようバックアップします。

◆**東京オリンピック・パラリンピックに向けて**／日体大生及び日体大関係者のご活躍を祈念し、当学科教員や卒業生が貢献できるよう取り組みます。キュアセンター等を通じ日体大アスリートの声に真摯に耳を傾け、ケガの治療や予防、復帰へのサポートに全力で対応します。

◆**日体大生に望むこと**／日体大のあらゆる面におけるとても恵まれた環境を活かしながら仲間と切磋琢磨してください。この環境で得た知力、体力や人とのつながり、そして情熱が、将来にわたって活躍できる礎となります。整復医療学科はスポーツキュアセンターと相まって日体大生のアスリートライフをサポートしていきますので、全力でスポーツに取り組んで下さい。

●Profile 伊藤 譲(いとう ゆずる)

①明治国際医療大学鍼灸学部鍼灸学科(H5.3)／大阪医科大学大学院医学研究科機能系生理学分野(H20.3)／②博士(医学)／③日本体力医学会(評議員)、柔道整復師、はり師、きゅう師、日本体育協会公認アスレティックトレーナー④友人と遊ぶことに全力投球でした。勉強は最低限でしたが、友人と色々なところに出かけたり旅をしたことや、様々なアルバイトで人とのつながり、接客や物事の仕組みなど色々なことを学んだことが今に生きています。⑤最近の趣味は娘とのサイクリングや自転車レースの参加です。ホビーレースでのんびりと爽快感を楽しんでいます。

常識ある社会人を輩出



保健医療学部 救急医療学科 学科長

朝日 茂樹 (あさひ しげき)

◆**就任にあたって**／2014年に開講した保健医療学部救急医療学科の責任者として、生命危機に瀕する人たちに冷静、沈着、的確に対処ができるような常識ある社会人を一人でも多く送り出していきたいと考えています。

◆**抱負**／救急救命士が現場で施行する医療行為は今後さらに増えることが予想されます。病院前の治療(院前医療 Prehospital Medicine)の充実が救命率を上昇させることが様々なデータで明らかになってきています。世界基準の救急医療に対応できるような教育体制を作り上げていくことが課題と考えております。その一方で救急要請の半数を占める軽症例に対する応急手当を地域で普及させるのも重要課題です。

◆**東京オリンピック・パラリンピックに向けて**／五輪競技で貢献できると共に、スポーツ医学を通じてオリンピック、パラリンピアンへの日体大サポート体制を体育学部、児童スポーツ教育学部、スポーツ文化学部と連携して構築していけたらと考えております。

◆**日体大生に望むこと**／毎日寝る前に、以下の5つを思い起こしてください。「1. 誠実さに背いた点はなかったか?」「2. 言行不一致のところはなかったか?」「3. 気力に欠ける動作はなかったか?」「4. 努力することに心残りはなかったか?」「5. 怠けてものぐさに一日を過ごしていなかったか?」。

●Profile 朝日 茂樹(あさひ しげき)

①弘前大学医学部医学科／②医学博士／③日本脳神経外科学会専門医・評議員、日本救急医学会、全日本剣道連盟医科学委員、日本体育協会公認スポーツ医、2014年読売新聞海外医療功労賞／92年の中米ニカラガアの大地震で国際緊急救助隊として派遣されて以来、20年以上、途上国での災害緊急医療に携わってきた経歴を持つ。東日本大震災においても東北新幹線車両と白河市土砂崩れ現場で救護活動を行う。④医学と剣道のみ⑤剣道教士7段、全日本剣道連盟上級社会体育指導員(共に汗をかき、焼き鳥とビールで一杯やるときが人生至福のときです)

平成29(2017)年度 事業計画の基本方針について

—日本体育大学—

少子高齢化が進行するわが国では18歳人口の減少傾向に歯止めが掛らない状況下にあり、2018年からは120万人を割り、2020年からはさらにその傾向が進展して110万人を割るなど高等教育への進学者が減少することから、各大学は国公立、私立を問わず、多様な入試改革を行なうための方策を講じて学生確保に鎚を削っている。これに加えて体育及びスポーツの分野では、有名私立大学をはじめとした諸大学で関連分野の学部及び学科の新増設が全国的規模で相次ぎ、この分野の専門大学として最も長い歴史と伝統を有する本学においても学生確保の問題は看過できない状況にある。2020年に東京でオリンピックとパラリンピックが開催されるので、この分野は開催までの間、追い風を受けることになるが、2020年後の18歳人口の激減と社会的ニーズの対応を見誤れば強い向かい風を受けることになる。したがって全国的に指導者を輩出してきた本学も、文部科学省の教育政策の変更(収容定員の抑制と相俟つて、そのような現況を危機として受け止めねばならない。優秀な学生(含…障害者アスリート)を全国から確保するための入試の在り方と改善を引き続き図るとともに、肥大化している体育学部を改組して教育の質の確保を図りつつ、国の内外で活躍できる人材の育成と、高齢者や障害者に体育及びスポーツを届けて、「健康な日常生活を提供できる人材の育成を旨として、新たな本学志願者の発掘を図る必要がある。また、2013年4月開設の児童スポーツ教育学部、2014年4月開設の保健医療学部、2017年4月開設のスポーツ文化学部及び2018年4月開設予定のスポーツマネジメント学部においても優秀な学生を確保するための入試の在り方と改善等を引き続き図ることも喫緊の課題となっている。そのため、各学部の魅力を醸成する必要がある。2017年4月の児童スポーツ教育学部を基盤とする大学院研究科の開設だけでなく、2018年4月の保健医療学部を基盤とする大学院研究科の開設と現行の大学院体育科学研究科新専攻(コーチング学)増設のための申請を行なう。

そこで、本学法人が掲げる中期ビジョン「世界の獅子たれー教育力の向上を目指して」の実現に向けた5つのテーマ すなわち ①2020年東京オリンピック・パラリンピックの拠点構想、②将来に向けた永続的な発展、③社会と世界をリードするグローバル人材の育成、④「体育・スポーツ・健康」を社会と世界に発信、⑤理事会基本方針「ワンファミリ」 「国際化」 「選手強化」、を推進するためにブランドデザインを策定のうえ、その具体的施策を立案して、これを事業計画として取り組むものである。取り分け、②の「将来に向けた永続的な発展」に関しては、各学部における教育の質を高めるべくFD、SDを推進するとともに、依然として肥大化の状態にある体育学部の改組を図るべく継続的に検討する。

1 教育の質の向上(選手強化を含む)

- ① 教員の教育技法(学習理論、授業法、討論法、学業評価法、ICT教育機器利用法、メディア・リテラシーの習熟を向上・改善するための研修会等を積極的に企画推進する。
- ② 適切な学生の確保のため入試内容の改革を検討する。
- ③ スポーツマネジメント学部(仮称)を新設するための申請を行い、認可を想定し、開設準備・入学試験の計画案を策定する。
- ④ 大学院体育科学研究科にコーチング学専攻(仮称)の増設ならびに保健医療学研究科(仮称)を新設するための申請を行い、認可を想定し、開設準備・入学試験の計画案を策定する。
- ⑤ 各学部のカリキュラムを検証し、改編を検討する。
- ⑥ 新設された学部・研究科の円滑な運営を図る。
- ⑦ 図書館での情報リテラシー教育を継続する。
- ⑧ 教育者としての望ましい人間性と子ども達の模範となる社会性、本学ならではの理論と実践に基づいた専門性を身に付けた教員の養成を実現する。
- ⑨ 教員としての資質を十分に備えた学生が現場で活躍できるような情報を収集し、採用対策強化に努める。
- ⑩ 学生のサポート環境の充実を図る。
- ⑪ 学生生活指導の充実を図る。
- ⑫ 大学の社会的な評価でもある就職率を現状の高い状態を維持しながら質の向上に努める。
- ⑬ 入学時から卒業まで段階を追って『人間力』『体力』を高める。
- ⑭ 2020年東京オリンピックに本学出身者を70名以上出場させるための選手強化を推進する。
- ⑮ オリンピアン・パラリンピアン、オリンピック・パラリンピック出場候補者の受入れ拡充を推進する。
- ⑯ 学友会運動部所属選手の強化を推進する。
- ⑰ ウ・スポーツ局を改組し、アスレティックパートナーメントを立ち上げる。
- ⑱ NITTAIDAI DMMATを発足し、学内外のスポーツ活動等の場面で発生した傷病者への救急対応を可能にする。
- ⑲ 救護用AEDを整備し、学内外のスポーツ活動等の場面で発生した傷病者への救急対応を可能にする。
- ⑳ 臨床実習施設スポーツキョアセンターの充実を図る。

2 研究の質の向上

- ①総合スポーツ科学研究センター内にスポーツ危機管理研究部門を追加し、スポーツ危機管理に関する研究を推進する。
- ②「紀要」刊行と研究成果のリポジトリ化により研究の質の向上を図る。
- ③研究活動推進部門の強化を図る。
 - ア・リサーチ・アドミニストレーター(URA: University Research Administrator)の配置と育成
 - イ・科研費獲得に向けた体制強化
 - ウ・府省庁が公募する大型外部資金獲得に向けた体制強化
 - エ・学術研究補助費による研究成果の評価
 - オ・研究のための倫理教育プログラムの実施
- ④研究施設・機器の管理部門の強化を図る。
 - ア・研究施設・機器備品の二元化管理
 - イ・大型研究機器の選定
- ⑤出版部門の強化を図る。
 - ア・「日本体育大学スポーツ科学研究」の質の向上の推進
 - イ・「オリンピックックススポーツ文化研究」の質の向上の推進
 - エ・イベント企画・運営部門の強化を図る。
- ⑥学内の研究成果を公開するための研究会の開催
 - イ・国際的・国内的な研究会の開催
- ⑦研究機関の質の高い研究と積極的な研究活動を展開する。
 - ア・「体育研究所」における研究の推進(改組を含む)
 - イ・「オリンピックックススポーツ文化研究所」における研究の推進
 - ウ・総合スポーツ科学研究センターを軸に研究機関相互(大学院、体育研究所、スポーツ・トレーニングセンター)の連携を強化する。
 - エ・体育研究所、スポーツ・トレーニングセンターで発行していたジャーナルの発行内容形態を変更する。

3 社会連携・社会貢献活動の強化

- ①東京都世田谷区及び青葉区を中心とした横浜市が抱える体育・スポーツに関する課題を抽出して、その解決に資する取

り組みを推進する。

- ②本学独自の資格制度(CSC(日本大地域スポーツコーディネイター)を具現化し、自治体や学校等と連携・協力が図れるマネジメント能力を有する人材育成を実現する。
- ③大規模災害に備え、地域の防災拠点となることを目指すとともに、学内及び地域の防災に対する意識の向上を図る。
- ④学校法人日本体育大学が推進する地方自治体との体育・スポーツ・健康等に関する事業に積極的に協力する。
- ⑤保護者会と連携し、災害ボランティア活動を推進する。

4 国際交流・国際化の推進

- ①国際化推進のため、海外在留邦人及び外国人、語学力技能の優れた人材に向けた受験機会を拡大させる。
- ②JICAと連携して卒業生を青年海外協力隊員として開発途上国に派遣する。連携案件である短期ボランティアの人員確保を推進する。
- ③現在開設しているグローバルカフェを改編・拡充して、グローバルプラザを設置し語学教育の強化・充実を図る。
- ④本学独自のスポーツ交流を推進する。
- ⑤海外大学との国際交流協定締結校を増やす。
- ⑥保健医療学部における、国際的医療人(柔道整復師・救急救命士)の養成を推進する。

5 計画的な施設設備整備の推進

- ①建物の維持管理に関する経費節減(省エネ・エコ対策を含む)を推進する。
- ②屋内・屋外の運動施設の修繕(既存施設の整備)を図り、施設環境維持により競技力向上を促進する
- ③新時代の学修環境等を考慮し、整備を進める。
- ④健志台分館と保健医療学部・新学部用図書館を統合したキャンパス図書館を実現する。
- ⑤女子志願者増加と女子学生の満足度を高めることを意識した施設整備を進める。
- ⑥経年劣化に伴う設備の修繕等管理を適切に進める。

障がいのある学生の積極的受入れに伴い、学修環境整備の環境として施設等のバリアフリー化を推進する。

6 ワンファミリーの施策展開強化

- ①併設校との連携を強化する。
- ②本学の支援団体としての保護者会・同窓会の連携を深める「校友会」設置に向けて調整を図る。
- ③オリンピックズクラブの運営を推進する。
- ④若手同窓との連携を強化する。

7 財務戦略(募集活動を含む)の強化

- ①退学者防止のため多角的な分析をもとに防止策を策定する。

8 安定かつ堅固な組織運営体制の構築

- ①社会における本学のブランドイメージの向上を図る。
 - ア・ホームページの充実と有効活用を図る。
 - イ・メディアを活用した広報活動の促進とマスコミ対応に努める。
- ②志願者数の増加施策を推進する。
- ア・大学案内「NITTAIDA」およびサブパンフレットを充実させる。
- イ・学生募集に関する広報活動を推進する。
- ウ・東京・世田谷キャンパス広報スペース等の有効活用を促進するため動画コンテンツの制作、編集を行い広報活動の充実を図る。

9 その他

- ③学内広報活動をし、情報の共有化を徹底する。
- ④職員の育成を図る。
- ⑤職場環境の整備を推進する。
- ⑥教職員のメンタルヘルス対応を実施する。
- ①減価償却引当特定資産及び退職給与引当特定資産への積立てを行う。

広がる地域との連携

平成28年度 日本体育大学社会貢献事業の取り組み例

スポーツ・健康・安全など多彩なテーマで活動を展開しています。

実技講習会	救命蘇生法講習会 (無料講座)	一般市民に対する心肺蘇生法の普及啓発のための講座。講義にて最新情報や資料映像が提供され、最先端の機材を用いた実習を行いました。学生による救命士のデモンストレーションもあり、質の高い講習会でした。	
健康運動教室	健康体力づくり運動教室 (エアロビクス) (有料講座)	健康寿命の延伸を目標にエアロビックダンスを通じてメタボリックシンドローム及びロコモティブシンドロームの予防・改善を図る講座。日常生活に活かせる動作や姿勢、筋トレ等もあり、楽しく満足度の高い講座でした。	
健康運動教室	腰痛さようなら体操教室 (無料講座)	腰痛を改善し、日常生活やスポーツ活動の向上をはかり、腰痛ケアを目的とした、自宅でもできる体操の教室。日常生活で気を付ける動きや体勢などの役立つ話もありました。治療体験や痛みやケガの相談会も行われました。	
	膝痛さようなら体操教室 (無料講座)	地域の方やスポーツを行っている方、膝痛に悩んでいる方を対象に、膝痛を改善し、日常生活やスポーツ活動の向上をはかるための講座を開催。膝痛ケアを目的とした、自宅でもできる体操を行いました。	
公開講座	スポーツに伴う救急事故を防ぐ (無料講座)	市民マラソン、学校の運動会、柔道、剣道、水泳等、スポーツに伴う様々な救急事故の実態と特徴、その予防法についての講義が行われました。スポーツに関わる方など幅広い年代の方々が多数受講され、好評を博しました。	 
	第25回幼児教育講座 (有料講座)	幼児教育・保育の現場で活躍されている方々を中心に、午前中は「幼児期運動指針の基本」を題材とした講演、午後は「毎日楽しく運動遊び—保育者の工夫—」をテーマに実技を行い、現場で活かせる講座となりました。	
	子どものころ、親のころ—子どもの発達と子育ての心理学— (有料講座)	「外国における子どものころと身体の諸問題」「わが国における就学支援の実践例」の話題提供および「子どものころの発達と子育ての心理学」を題材とした講演により理解を深め、対応方法のヒントが示されました。	
スポーツ教室	ママさんサマーキャンプ (バレーボール教室) (有料講座)	ママさんバレーチーム所属の方や一般の方を対象に、午前中は技術指導、午後は試合形式で行いました。トレーナーに相談や施術が受けられるブース、子どもを預けるキッズブースも好評でした。	 
	ヤングウィンターキャンプ (バレーボール教室) (有料講座)	幼稚園児、小学生、ジュニアバレーボールチーム所属選手向けにバレーボールの個別技術やゲーム戦術等に関する指導教室を実施。本学学友会バレーボール部の選手も指導サポートにあたりました。	
	柔道教室 (有料講座)	全日本選手権や講道館杯などで優秀な成績を収めている本学柔道部を指導する柔道研究室が主管する柔道教室。体力作り、礼儀作法を中心に技術を段階的に向上させることを目的として行いました。	
体力測定	体力測定 (無料講座)	血管年齢・骨密度・身体測定・全身反応時間・握力・長座体前屈・8フィート歩行・6分間歩行・30秒椅子立ち上がり動作・Trail Making Test・遺伝子検査を実施。予想を上回る参加者数で大盛況でした。	
その他・各種取り組み	防災訓練	平成28年10月横浜・健志台キャンパスで地域住民参加型の防災訓練を実施。また、11月には世田谷区・養護老人ホームでの防災訓練にも参加するなど地域防災力向上の取組を推進。	
	体育・スポーツ活動支援	小・中学校の部活動補助、マラソン大会、スポーツイベント、陸上競技大会・運動会・スポーツテストの補助、各運動部の演技披露と指導、部活動見学など、学友会等からボランティアを派遣。	  
	地域美化活動	クリーン大作戦として学友会総務部を中心に、東京・世田谷キャンパス及び横浜・健志台キャンパス周辺等の清掃や、キャンパス近隣の美化活動、海浜実習の地である千葉県・岩井海岸の清掃等を実施。	
	日体大スポーツフェスタ2016	平成28年12月東京・世田谷キャンパスで小学生向けのスポーツ体験教室に、150名の子ども達が参加。(アルティメット、タッチラグビー、ダブルダッチ、ダンス、フットサル、フロアボール、ボクシング、レーザーピストルの8種目)	
	教育活動支援・ボランティア他	市区町村および教育委員会との連携協定に伴う保育園・幼稚園・小・中学校・特別支援学校などの教育活動に派遣。	
	その他	○平成28年7月3日(日)に東京・世田谷キャンパス記念講堂にて「2016年リオデジャネイロ五輪壮行会」が行われ、ここに地域住民の方々を招待し総勢500名で激励。 ○平成28年8月1日(月)に社会福祉法人どろんご会駒沢どろんご保育園と「保育園児の活動補助者事業に関する協定書」を締結。 ○平成28年9月1日(木)に「学生ボランティア事業に関する狛江市教育委員会と日本体育大学との協定書」を締結。	

平成28年度 学友会祝勝会!



平成29年2月19日(日)東京・世田谷キャンパスメインアリーナにて「平成28年度学友会祝勝会」が開催されました。この会は「全日本総合選手権」および「全日本学生選手権」もしくはそれと同等にあたる大会において優勝を収めたクラブの栄誉を祝して行われるもので、今年度は優勝を果たした24団体に対して行われました。

また、日体ファミリーとして併設校である日体大荏原高校、日体大柏高校、日体桜華高校からも今年度優秀な成績を収めた選手たちにも集まりいただき、終始華やかなムードで進められました。

今年度は、リオ大会もありオリンピック、パラリンピアンも参加し互いの栄誉をたたえあっていました。

中盤には各団体の挨拶がステージ上で披露され、最後は応援部によるエールが参加者に送られました。

来年度も本学から多くの団体が優勝し、優勝団体としてこの場に集えるよう祈念いたします。

日 | 体 | 大 | の | い | ま | を | 知 | る | ! |

平成28年度 全日本学生選手権以上の大会で優秀な成績を収めた団体成績一覧

団体名	リオデジャネイロオリンピック・パラリンピック入賞者
体操競技部	男子団体総合優勝 跳馬 3位(白井健三)、女子団体総合 4位(村上茉愛)
陸上競技部	女子400m(T47) 3位(辻沙絵)
レスリング部	フリースタイル57kg級 2位(樋口黎)

団体名	大会成績
アーチェリー部	2016年第55回全日本学生個人選手権大会 CP男子優勝(遠藤優)、RC女子優勝(中村純銘) 2016年第29回全日本学生フィールドアーチェリー選手権大会 RC男子優勝(河田悠希)、RC女子優勝(小城碧)
ウエイトリフティング	第13回全日本学生ウエイトリフティング選手権大会 75kg超級優勝(粟野雅佳子)
カヌー部	2016年度第52回全日本学生カヌースプリント選手権大会 女子カナディアン部門優勝、K-1リレー500m×4優勝(井上暉央・本間誠・三浦伊織・宮永翔平)、K-1200m優勝(井上暉央) WC-2500m優勝(内田沙月・久保田愛夏)、WC-1500m・200m優勝(久保田愛夏)
剣道部	第50回全日本女子学生剣道優勝大会 個人優勝(小川萌々香)
自転車競技部	文部科学大臣杯第72回全日本学生対抗選手権自転車競技大会 チームスプリント優勝(齋藤望・岡本二菜)、500mタイムトライアル優勝(齋藤望) 全日本自転車競技選手権オムニアム優勝(小林泰正) 全日本学生自転車競技選手権個人タイムトライアル 個人ロードタイムトライアル優勝(古山稀絵)
少林寺拳法部	2016年少林寺拳法全国大会inおいた 男子団体、女子団体優勝 第21回少林寺拳法全日本学生大会 男女二段以上、男子初段組演武優勝
柔道部	東京グランドスラム2016 男子66kg級優勝(阿部一二三)
水泳部	第92回日本選手権水泳競技大会 400m自由形優勝(五十嵐千尋)、OWS女子10km優勝(森山幸美)、飛込競技男子1m飛板飛込優勝(千步純一)、男子高飛込優勝(岡島太一) 第92回日本学生選手権水泳競技大会競泳競技 女子メドレーリレー優勝(赤瀬紗也香・五十嵐千尋・関口美咲・西彩乃)、水球競技 優勝、飛込大会 男女総合優勝、男子高飛込優勝(岡島太一)
スケート部	第4回日本学生女子アイスホッケー大会 優勝 SBC杯第23回全日本スピードスケート距離別選手権大会 女子1500m(QS)優勝(高木美帆)
相撲部	第21回世界相撲選手権大会 中量級優勝(三輪隼斗)
体操競技部	第70回全日本学生体操競技選手権大会 男子個人総合優勝(神本雄也)、女子団体優勝
トライアスロン部	2016日本学生トライアスロン選手権観音寺大会 女子選手権優勝(阿間見眸・岸本新菜・野村彩夏) 第9回日本学生スプリングトライアスロン選手権渡良瀬大会2016全日本大学トライアスロン選抜大会 学生選抜男子団体優勝(有島愛葵・北條巧・安松青葉)、学生選抜女子団体優勝(阿間見眸・岸本新菜・孫崎虹奈)
トランポリン部	第53回全日本トランポリン競技選手権大会 女子シンクロナイズド競技優勝(佐竹玲奈・土井畑知里)、個人競技優勝(土井畑知里)
軟式野球部	第30回全日本大学女子野球選手権大会 優勝
バドミントン部	第67回全日本学生バドミントン選手権大会 男子シングルス優勝(松居圭一郎・玉手勝輝)
ライフセービング部	第31回全日本学生ライフセービング選手権大会 チーム総合男子優勝 第42回全日本ライフセービング選手権大会 チーム総合優勝
ラグビー部	太陽生命ウィメンズセブンズシリーズ2016 年間総合優勝
陸上競技部	日本学生陸上競技対校選手権大会 棒高跳優勝(鈴木里菜) 日本学生陸上競技個人選手権大会 200m優勝(川瀬孝則)
レスリング部	2016年全日本大学グレコローマン選手権 団体優勝 2016年全日本学生レスリング選手権大会 グレコローマンスタイル66kg級優勝(下山田培)、71kg級優勝(高橋昭五)、75kg級優勝(宇野寿倫)、80kg級優勝(屋比久翔平)、85kg級優勝(塩川貴太)、98kg級優勝(奈良勇太)、フリースタイル86kg級優勝(松坂誠應)、女子レスリング58kg級優勝(河内美樹)
インラインホッケークラブ	第19回JHFインラインホッケー全日本選手権大会(L) 優勝
セバタクロール同好会	第27回全日本学生セバタクロール選手権大会 男子優勝(新開耕平・瀧呂木皓基)、女子優勝(井上みく・小林千夏・戸上佳代)
ダブルダッチサークル	第43回ADDL世界招待選手権(オープン部門) 優勝
フィンスイミングクラブ	第25回フィンスイミング短水路日本選手権大会 男子4×100mビーフィンリレー優勝(安藤一樹・風間大輔・川村祐三・宮島陸徳)
タッチラグビーサークル	全日本選手権 メンズクラス優勝、ウィメンズクラス優勝

※1月27日に各団体に提出していただいた【平成28年度学友会祝勝会に関わる報告】を基に作成

学 長	具志堅 幸司
副学長 (企画・管理・運営担当)	松井 幸嗣
副学長 (教学・学生生活担当)	笠井 里津子
大学改革推進室長	西本 幸嗣
インスティテューショナル・リサーチ室長	松井幸嗣 (兼)

大学院体育科学研究科	
研 究 科 長	石井 隆 憲

大学院教育学研究科	
研 究 科 長	角屋 重 樹

体 育 学 部	
学 部 長	松井幸嗣 (兼)
体 育 学 科 長	水野 増 彦
健 康 学 科 長	鈴川 一 宏
武 道 学 科 長	齋藤 一 雄
社 会 体 育 学 科 長	依田 充 代

スポーツ文化学部	
学 部 長	八木 沢 誠
武 道 教 育 学 科 長	山本 洋 祐
ス ポ ー ツ 国 際 学 科 長	金田 英 子

児童スポーツ教育学部	
学 部 長	久保 健
児童スポーツ教育学科長	岡本 美和子
児童スポーツ教育コース主任	金本 良通
幼児教育保育コース主任	本多 洋実

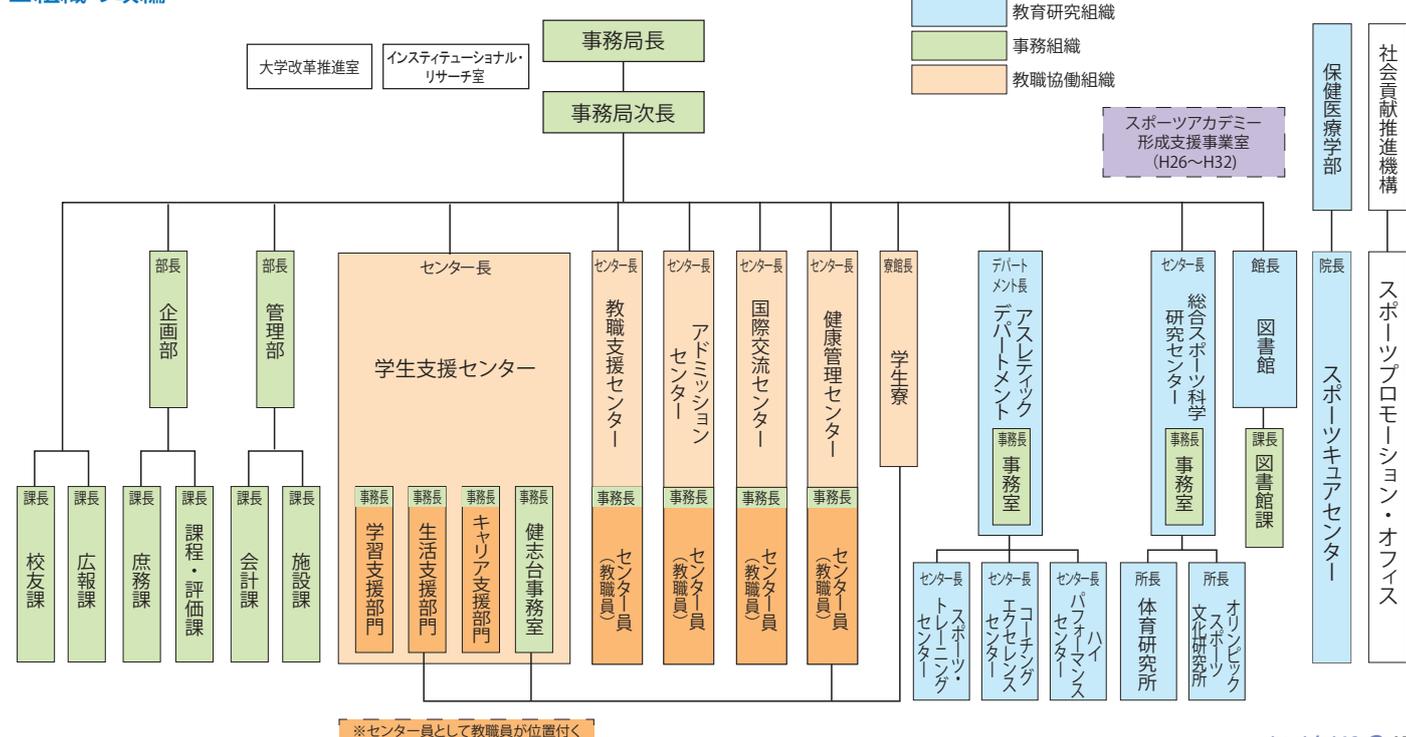
保健医療学部	
学 部 長	平沼 憲 治
整 復 医 療 学 科	伊藤 謙 讓
救 急 医 療 学 科	朝日 茂 樹

教 養 ・ 教 職 科 長	林 忠 男
---------------	-------

【附置機関長】

図書館長	三好 仁 司	教職支援センター長	後藤 彰 彰
健康管理センター長	平沼 憲 治 (兼)	副センター長	近藤 智 靖
学生支援センター長	三宅 良 輔	寮監長	根本 研
副センター長 (学習支援・キャリア支援担当)	小林 正 利	スポーツキウアセンター (保健医療学部附属接骨院) 院長	伊藤 謙 (兼)
副センター長 (生活支援担当)	須永 美 歌子	総合スポーツ科学研究センター長	野井 真 吾
部門長 (学習支援部門)	菊名 博 之	体育研究所長	中里 浩 一
部門長 (生活支援部門)	緒方 美 保	オリンピックスポーツ文化研究所長	関根 正 美
部門長 (キャリア支援部門)	大山 茂	アスレティックデパートメント長	山本 博
アドミッションセンター長	荻 浩 三	アスレティックデパートメント長補佐	岡本 孝 信
副センター長	忠政 明 彦	アスレティックデパートメント長補佐	佐野 昌 行
国際交流センター長	荒木 達 雄	ハイパフォーマンスセンター長	大本 洋 嗣
副センター長	山口 和 之	コーチングエクセレンスセンター長	伊藤 雅 充
		スポーツ・トレーニングセンター長	西山 哲 成

■組織の改編



■平成29年度 入学試験結果

※()内は女子内数
※倍率=受験者数÷合格者数

■日本体育大学 体育学部

区分		志願者数	受験者数	合格者数	倍率
体育学科	A O	544 (201)	541 (201)	171 (78)	3.16
	推薦	578 (198)	578 (198)	434 (143)	1.33
	一般	1802 (472)	1758 (462)	287 (87)	6.13
	合計	2924 (871)	2877 (861)	892 (308)	3.23
健康学科	A O	76 (54)	75 (53)	26 (22)	2.88
	推薦	20 (16)	20 (16)	18 (14)	1.11
	一般	746 (297)	731 (290)	257 (104)	2.84
	合計	842 (367)	826 (359)	301 (140)	2.74
社会体育学科	A O	102 (35)	100 (35)	26 (14)	3.85
	推薦	36 (15)	36 (15)	28 (12)	1.29
	一般	578 (149)	560 (146)	250 (79)	2.24
	合計	716 (199)	696 (196)	304 (105)	2.29
合計	A O	722 (290)	716 (289)	223 (114)	3.21
	推薦	634 (229)	634 (229)	480 (169)	1.32
	一般	3126 (918)	3049 (898)	794 (270)	3.84
	合計	4482 (1437)	4399 (1416)	1497 (553)	2.94

※AO入試はトップアスリートAO入試Ⅰ期・Ⅱ期、学科AO入試、併設校AO入試、地域ブロックAO入試を含む。
※推薦入試は推薦入試Ⅰ期、推薦入試Ⅱ期を含む。
※一般入試は一般入試前期、一般入試後期、帰国生入試、リカレント入試、外国人留学生入試、飛び入学入試、英語外部資格入試を含む。
※一般入試合格者は補欠繰上合格者を含む。
※IB資格入試は出願なし。

■日本体育大学 スポーツ文化学部

区分		志願者数	受験者数	合格者数	倍率
武道教育学科	A O	88 (31)	88 (31)	52 (21)	1.69
	推薦	46 (14)	46 (14)	41 (11)	1.12
	一般	35 (12)	34 (12)	15 (6)	2.27
	合計	169 (57)	168 (57)	108 (38)	1.56
スポーツ国際学科	A O	66 (21)	65 (21)	42 (17)	1.55
	推薦	27 (7)	27 (7)	14 (5)	1.93
	一般	559 (156)	547 (156)	101 (34)	5.42
	合計	652 (184)	639 (184)	157 (56)	4.07
合計	A O	154 (52)	153 (52)	94 (38)	1.63
	推薦	73 (21)	73 (21)	55 (16)	1.33
	一般	594 (168)	581 (168)	116 (40)	5.01
	合計	821 (241)	807 (241)	265 (94)	3.05

※AO入試はトップアスリートAO入試、学科AO入試、併設校AO入試を含む。
※推薦入試は推薦入試Ⅰ期、推薦入試Ⅱ期を含む。
※一般入試は一般入試前期、一般入試後期、帰国生入試、外国人留学生入試を含む。
※一般入試合格者は補欠繰上合格者を含む。
※リカレント入試、英語外部資格入試は出願なし。

■日本体育大学 児童スポーツ教育学部 児童スポーツ教育学科

区分		志願者数	受験者数	合格者数	倍率
児童スポーツ教育コース	A O	90 (57)	88 (56)	21 (17)	4.19
	推薦	108 (63)	108 (63)	60 (40)	1.80
	一般	535 (202)	514 (197)	126 (57)	4.08
	合計	733 (322)	710 (316)	207 (114)	3.43
幼児教育保育コース	A O	45 (41)	45 (41)	10 (10)	4.50
	推薦	26 (21)	26 (21)	22 (20)	1.18
	一般	40 (31)	37 (28)	29 (23)	1.28
	合計	111 (93)	108 (90)	61 (53)	1.77
合計	A O	135 (98)	133 (97)	31 (27)	4.29
	推薦	134 (84)	134 (84)	82 (60)	1.63
	一般	575 (233)	551 (225)	155 (80)	3.55
	合計	844 (415)	818 (406)	268 (167)	3.05

※AO入試は学科AO入試、併設校AO入試を含む。
※一般入試は一般入試前期、一般入試後期、帰国生入試を含む。
※一般入試合格者は補欠繰上合格者を含む。
※リカレント入試、IB資格入試、英語外部資格入試は出願なし。

■日本体育大学 保健医療学部

区分		志願者数	受験者数	合格者数	倍率
整復医療学科	A O	94 (38)	94 (38)	44 (27)	2.14
	推薦	51 (17)	51 (17)	30 (12)	1.70
	一般	81 (22)	75 (22)	32 (13)	2.34
	合計	226 (77)	220 (77)	106 (52)	2.08
救急医療学科	A O	53 (14)	52 (14)	29 (10)	1.79
	推薦	31 (6)	31 (6)	31 (6)	1.00
	一般	67 (11)	64 (11)	39 (6)	1.64
	合計	151 (31)	147 (31)	99 (22)	1.48
合計	A O	147 (52)	146 (52)	73 (37)	2.00
	推薦	82 (23)	82 (23)	61 (18)	1.34
	一般	148 (33)	139 (33)	71 (19)	1.96
	合計	377 (108)	367 (108)	205 (74)	1.79

※AO入試は学科AO入試、併設校AO入試を含む。
※一般入試は一般入試前期、一般入試後期を含む。
※一般入試合格者は補欠繰上合格者を含む。
※帰国生入試、リカレント入試は出願なし。

■日本体育大学 体育学部 編入学

志願者数	受験者数	合格者数
14 (3)	14 (3)	2 (0)

※児童スポーツ教育学部は出願なし。
※二次募集を含む

■日本体育大学大学院 体育科学研究科

区分	博士前期課程		
	志願者数	受験者数	合格者数
スポーツ文化・社会科学系	11 (3)	11 (3)	4 (2)
トレーニング科学系	11 (3)	11 (3)	6 (1)
健康科学・スポーツ医科学系	6 (1)	6 (1)	5 (1)
コーチング学系	27 (8)	26 (8)	17 (7)
スポーツ教育・健康教育学系	13 (5)	13 (5)	5 (2)
合計	68 (20)	67 (20)	37 (13)

区分	博士後期課程		
	志願者数	受験者数	合格者数
スポーツ文化・社会科学系	2 (0)	2 (0)	1 (0)
トレーニング科学系	1 (1)	1 (1)	1 (1)
健康科学・スポーツ医科学系	3 (1)	3 (1)	3 (1)
教育・コーチング学系	8 (0)	8 (0)	7 (0)
合計	14 (2)	14 (2)	12 (2)

■日本体育大学大学院 教育学研究科

博士前期課程			博士後期課程		
志願者数	受験者数	合格者数	志願者数	受験者数	合格者数
11 (6)	11 (6)	11 (6)	9 (2)	9 (2)	9 (2)

■平成29年度学年暦

2017年	月 日	行 事
4月	2(日)	新入生オリエンテーション
	3(月)	入学式
	4(火)～5(水)	新入生オリエンテーション
	6(木)	前学期授業開始
5月	1(月)	7/17の振替休日
	2(火)	11/23の振替休日
7月	8(土)～16(日)	夏季実習期間
	17(月)	海の日(通常授業)
8月	2(水)	前学期授業終了
	3(木)	日体スキルアップセミナー(全学部1学年)
	3(木)	補講(保健医療学部のみ)
	4(金)～10(木)	追・再試験・補講期間(保健医療学部を除く)
	4(金)	定期試験(保健医療学部のみ)
	7(月)～10(木)	定期試験(保健医療学部のみ)
	28(月)～9/1(金)	追・再試験・補講期間(保健医療学部のみ)
9月	20(水)	開学記念日
	25(月)	後学期授業開始
11月	2(木)～5(日)	日体フェスティバル(準備日含む)
	23(木)	勤労感謝の日(通常授業)
12月	22(金)	12月授業終了

2018年

1月	11(木)	1月授業開始
	29(月)	後学期授業終了
	31(水)	入試準備(関係者以外学内立ち入り禁止)
2月	5(月)～9(金)	追・再試験・補講期間(保健医療学部を除く)
	5(月)	補講(保健医療学部のみ)
	6(火)～9(金)	定期試験(保健医療学部のみ)
	10(土)～21(水)	冬季実習期間(体育学部、スポーツ文化学部のみ)
	13(火)	定期試験(保健医療学部のみ)
	15(木)	採点登録締め切り(保健医療学部のみ)
3月	19(月)～23(金)	追・再試験・補講(保健医療学部のみ)
	10(土)	卒業式
	11(日)	春季休業(3/31まで)

学報NITTAIDAI(ニツタイダイ)48号
 発行日●2017年4月3日
 発行●日本体育大学広報委員会
 TEL 03-5706-0948
 FAX 03-5706-0922
 http://www.nittai.ac.jp/
 制作協力●(株)図書出版

■平成28年度退職者紹介

①着任、②主な役職等、③主な学友会活動、④主な学会・活動等(抜粋)

富田 幸博 (とみた ゆきひろ)

①昭和49年／②体育専攻科長、図書館長、寮監長／③少林寺拳法部部長、合気道部部長、ラクロス部部長、ボート部部長、ライフセービング部部長、体育管理研究サークル顧問／④日本体育学会、日本体育・スポーツ政策学会、日本運動・スポーツ科学学会、日本体育・スポーツ経営学会、横浜市スポーツ推進審議会委員、東京都スポーツ文化事業団評議員、東京都体育協会評議員、横浜市体育協会評議員

山田 保 (やまだ たもつ)

①昭和49年／②体育研究所所長、体育専攻科長、健康学科長、教務部長、学長室室長／③トライアスロン部部長、ダブルダッチ同好会顧問、総務部部長／④日本体育学会、日本体力医学会、日本運動生理学、日本臨床スポーツ医学会、日本運動・スポーツ科学学会、日本武道学会、日本トライアスロン連合強化本部部長、JOC強化本部委員、日本トライアスロン連合競技本部医事・科学委員会委員長

上田 幸夫 (うえだ ゆきお)

①昭和63年／②FD委員会委員、広報委員会委員、紀要委員会委員、海外・学術スポーツ交流委員会委員／③社会体育研究会顧問／④日本社会教育学会、日本公民館学会、川崎市社会教育委員会議長、世田谷区新BOP運営委員会委員長(世田谷区教育委員会教育政策部、子ども・若者部)、西東京市公民館運営審議会委員、平成18年度地域活性化事例研究事業のアドバイザー(内閣府男女共同参画推進課)

時本 久美子 (ときもと くみこ)

①昭和46年／②短期大学部長、幼児教育保育科長、専攻科長(保育専攻)／③保育研究サークル顧問、放送部部長、写真部部長／④日本保育学会、日本体育学会、日本子ども虐待予防学会、社会福祉法人にじのいえ理事、学校法人慈光学園の鈴幼稚園理事、同評議員、社会福祉法人世田谷共育舎用賀なのはな保育園理事、社団法人日本女子体育連盟理事、文部科学大臣短期大学教育功労表彰

小早川 ゆり (こばやかわ ゆり)

①昭和48年／②健康学科長、寮監長補、海浜実習長／③水泳部部長、水泳部競泳監督、水泳部競泳女子監督、チアリーダー部部長、運動部統括副部長／④日本体育学会、日本体力医学会、神奈川県スポーツ推進審議会会長、日本水泳連盟学生委員会関東副支部長、同支部長、日本水泳連盟評議員、世界選手権大会選考・オリンピック選考会競技役員、公益財団法人日本水泳連盟功労賞、同有功賞

齊藤 崇 (さいとう たかし)

①平成22年／④日本保育学会、日本乳幼児教育学会、日本保育者養成教育学会、日本心学会、日本教育心理学会、日本人間性心理学会、日本心理臨床学会、日本カウンセリング学会、日本パーソナリティ心理学会、日本発達心理学会、日本健康心理学会、日本応用心理学会、日本カウンセリング学会第47回大会準備委員、日本応用心理学会第80回記念大会実行委員、全国保母養成協議会賞

岡部 綱好 (おかべ つなよし)

①平成26年／④東京消防庁入庁消防士、自治省(現、総務省)消防庁救急救助室、消防庁救急救助課救急企画係長、東京都福祉保健局医療政策部副参事(災害医療担当)、東京消防庁消防司令長、本郷署警防課長・牛込署予防課長、救急部救急医務課長、第九方面本部副本部長、東京消防庁消防監、成城消防署長、東京消防庁消防正監、日本救急医学会、日本臨床救急医学会、日本集団災害医学会

田中 理恵 (たなか りえ)

①平成24年／④日本体操競技器械運動学会、第70回国民体育大会応援団長、東京オリンピック・パラリンピック大会組織委員会理事、第30回夏季オリンピック競技大会(ロンドン)女子団体8位入賞、全日本選手権個人総合優勝、NHK杯個人総合銀、全日本選手権個人総合銀、広州アジア大会女子団体銀・個人総合銅・跳馬銀、ロンジン・エレガンス賞、体操競技世界選手権女子団体5位入賞